

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムV2.7.0(2016) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	公益社団法人愛知県看護協会新研修会館	階数	地下1階地上5階
建設地	名古屋北区大曾根三丁目1706-2、1707、1708、1709	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XXX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集会所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2023年9月29日
敷地面積	1,374 m ²	作成者	
建築面積	1,019 m ²	確認日	2023年9月29日
延床面積	4,846 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>敷地は大曾根駅からほど近い大通りに面しているため、リボン状のルーバーにより雑多な街に埋没しないシンボリックなファサードとしつつ、住宅地に面した南側は部分的に建物をセットバックして緑化を各階に設けた。会員向けの看護研修を行う場、協会の事務機能集約される施設としてだけでなく交流の場としてのラウンジや貸出可能なホール等を設け、ひとつのつながりを感じられる施設を目指した。</p>		
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>建物中央部にはトップライト、吹抜けを設け、自然光追従システムを導入することで冬でも光が下層まで届き、中間期には自然換気装置により爽やかな空気が流れこむことで各階に設けた屋上緑化と吹抜周囲のラウンジ空間により心地良い快適な空間となるよう配慮した。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>4、5階の研修室、実習室は今後の研修数を想定して教室数を検討し、不足のないように配慮した。会員同士の交流の場として研修室、吹抜周囲にはコミュニケーションスペースを配置し、飲食も可能なスペースとした。協会事務機能は2階に集約し、その一角にはリフレッシュエリアを設ける計画とした。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>北側歩道に面して緑化することで景観に配慮した。南面も駐車場以外の道路に面した部分をできるだけ緑化した。2階以上についても南側/ルコニーは緑化し南面のファサードとして緑化を感じられるようにした。建物東西面は砕石敷きとする等できるだけ舗装面を減らし、緑化によるヒートアイランド現象の緩和や土の保水力を利用して雨水流出抑制を行い、健全な水循環に配慮した。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>建物中央部にはトップライト、吹抜けを設け、自然光追従システムを導入することで自然光による照明電力削減を図り、中間期には自然換気システムを採用し自然換気とすることで空調の省エネに配慮した。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>屋上緑化部分には雨水利用できるように整地からの分岐管を設ける計画とした。建築材料は少ない環境負荷で製造・使用・リサイクル又は廃棄できる、地球と人にやさしい材料を採用し、環境資源に配慮した。協会の事務機能は2階に集約し、その一角にはリフレッシュエリアを設ける計画とした。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>屋外広告物は10m以下の設置とし、周囲への光害に配慮した。廃棄物や再資源の保管・分別場所を建物内に確保した。駐車場は附属機台数を確保し、北側の道路からの乗入ではなく南側道路からの乗入に限定し、安全性に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

公益社団法人愛知県看護協会新研修会館

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生				4.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09076964	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009076964
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.04538482	
3. 循環型社会				3.8
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.2
2. 自然共生	評価点 = 4.1
3. 循環型社会	評価点 = 3.8

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。